
看護と介護の日本語教育研究会 第 30 回例会
第 1 回 研究・実践プラットフォーム
第 1 部 ポスター発表 プログラム

日時：2026 年 8 月 23 日（日） 13:00 – 16:00

会場：大原学園 4 号館（東京ホテル・トラベル・鉄道専門学校）
東京都千代田区西神田 1-2-15

主催：看護と介護の日本語教育研究会

問い合わせ：kangokaigo@gmail.com

■ 第一部 看護と介護の日本語教育 研究発表会（ポスター発表）
対面開催 13:00 – 14:40

【発表 1】 13:10 - 13:50

■ 発表者

出野由紀子・謝京子

IDENO Yukiko / SHA Kyoko

■ 所属

ヤマザキ動物看護大学動物看護学部 / 東吳大學外國語文學院日本語文學系博士班

■ 発表タイトル

生成 AI を活用した看護・介護日本語教育の可能性

——外国人介護人材の声かけ表現支援に着目して——

■ キーワード

看護・介護日本語教育、生成 AI 活用、声かけ表現支援

■ 発表要旨

本発表は、外国人介護人材を対象とした看護・介護日本語教育において、生成 AI を活用した声かけ表現支援の可能性を検討するものである。介護現場では、専門用語や業務連絡の理解だけでなく、利用者に安心感を与える声かけ、相手の意思を確認する表現、拒否や不安に配慮するやさらかな日本語表現が求められる。たとえば、「立ってください」「食べてください」といった直接的な表現は、文法的には正しくても、場面によっては命令的に受け取られる可能性がある。そのため、外国人介護人材には、正確な日本語だけでなく、利用者の尊厳や心理的安心に配慮した表現を学ぶ機会が必要である。

そこで、介護場面で用いられる声かけ表現を取り上げ、通常日本語表現、やさしい日本語、生成 AI による配慮表現を比較する。具体的には、それぞれの自然さ、わかりやすさ、介護場面への適切性を検討し、教材化に向けた課題を整理する。生成 AI は、複数の表現案を短時間で提示できる点で教材作成を支援する可能性がある一方、現場の安全性や文化的配慮を踏まえた教員・実践者による確認が不可欠である。以上を通して、外国人介護人材の実践的な日本語運用力を支える教材設計の方向性について考察する。

【発表 2】 13:10 - 13:50

■ 発表者

中川健司・奥村匡子・天野ゆかり・黄海洪・角南北斗・布尾勝一郎・齊藤真美
NAKAGAWA Kenji / OKUMURA Kyoko / AMANO Yukari / KOU Kaikou /
SUNAMI Hokuto / NUNOO Katsuichiro / SAITO Mami

■ 所属

横浜国立大学 / 神奈川大学 / 静岡県立大学 / 大阪大学 /
フリーランス / 立命館アジア太平洋大学 / 日越大学

■ 発表タイトル

「やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集」クイズアプリの開発

■ キーワード

■ 発表要旨

「やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集」は、介護福祉士国家試験を受験する外国人介護人材向けのウェブ教材である。母語や文化的背景を問わず学べるよう、介護専門用語を「やさしい日本語」及びその翻訳で説明しているのが特徴である。また、多言語検索やタグによる絞り込み、音声読み上げ機能も備えている。今回、同教材で扱う介護専門用語を実践的に学べるクイズアプリを開発した。ウェブアプリの形態を取り、インターネット接続があれば、PC、タブレット、スマートフォンのいずれからでも利用可能である。

4 択の選択式クイズを採用しており、初級（訳語で学習）と中級（やさしい日本語で学習）のレベルが選択できる。さらに、毎回ランダムに出題されるモードと、未出題の用語を優先的に提示し全用語を網羅的に学習できる「網羅出題」モードの 2 種類の出題形式がある。各問題の回答後には詳しい解説が表示され、10 問終了後の結果画面では、学習の進捗（網羅率）や各問題の正誤一覧を確認でき、誤答した用語の復習も容易である。現在は英語版のみであるが、今後はインドネシア語、ベトナム語、中国語、ミャンマー語、ネパール語の各言語版の開発を予定している。

【発表 3】 13:10 - 13:50

■ 発表者

鈴木 元

SUZUKI Gen

■ 所属

有限会社アカデミア

■ 発表タイトル

AI とのロールプレイ方式による日本語学習システム

■ キーワード

日本語学習、AI 活用、会話練習

■ 発表要旨

従来、日本語学習において、話すスキルの練習には、日本人の相手役が必要であった。しかし、近年の AI の進展により、AI が対話相手となるロールプレイ練習が可能となった。本研究では、AI との対話的ロールプレイ方式による日本語学習システムを開発し、その効果を評価した。

AI とのロールプレイとしては、特に日本語学習初心者向けのアイスブレイク会話と、中級者向けの業務日本語会話の二つを対象として、学習シナリオ、学習語彙データベース、会話モデルを準備して、AI に事前学習させ、学習者のレベルや学習履歴などに適応したフレキシブルなロールプレイ会話練習方式を実現した。この手法を利用することで、AI による、学習者の会話スキルの定量評価方式の可能性についても検討した。本研究では、これらの結果を踏まえ、AI を活用する、実践的で学習効率の高い日本語会話練習方式について、考察する。

【発表 4】 13:10 - 13:50

■ 発表者

小田切明菜

ODAGIRI Akina

■ 所属

横浜国立大学大学院

■ 発表タイトル

特養の外国人介護人材が感じる学習の難しさ

ー介護福祉士国家試験に合格した特定技能外国人の語りからー

■ キーワード

働きながらの学習、自律学習、環境要因

■ 発表要旨

現在、外国人介護人材は増加を続けており、介護の日本語を習得することや働きなが

ら勉強することの難しさを訴える声が多数聞かれる。本研究は、外国人介護人材が働きながら学習する際の困難とその要因を明らかにすることを目的とした。

調査対象は介護福祉士国家試験に合格した特定技能外国人 A（ベトナム、介護職 4 年目）である。半構造化インタビューを実施し、質的統合法（山浦 2025）を援用して分析した。A の語りは①特養で勤務しながら学習することの難しさ（現場の余裕のなさ、シフト調整等で迷惑をかけたくないという思い）、②習得すべきだと思う日本語の難しさ（同僚とのコミュニケーション、特に利用者の状態を表現する日本語の難しさ）、③学習成功の理由だと考えられる力（必要な学習内容や学習方法を判断し、自分に合った支援や教材を選択する力）、の 3 つに整理された。

語りの内容を更に整理すると、外国人介護人材の学習を難しくしている要因は、学習能力や考え方等の学習者本人側のものだけでなく、職員の余裕のなさ等職場環境にも存在することが示唆され、外国人介護人材の学習を進めやすくするためには、受入機関側が環境改善を行う必要があることが示された。

【発表 5】 13:10 - 13:50

■ 発表者

比留間洋一

HIRUMA Yoichi

■ 所属

静岡大学

■ 発表タイトル

学習支援なき制度の中で合格する

——ベトナム人介護特定技能労働者 3 名の縦断的事例研究

■ キーワード

ベトナム人介護技能労働者、介護福祉士国家試験、「投資」としての学習

■ 発表要旨

本研究は、3 回目の介護福祉士国家試験受験（2026 年 3 月）で合格したベトナム人技能

労働者（技能実習生・特定技能人材）の軌跡を、当事者のエージェンシーに着目して考察する質的事例研究である。（EPA に比べ）学習支援が貧困な制度の中で、当事者がいかに学習に対して経済資本・時間・感情を「投資」してきたかを記述・分析する。

「当事者の実態調査を行い、彼らに対する日本語教育のあり方を考えること」（道上 2024：46）という立場を介護技能労働者に適用したものである。

A 県内のベトナム人介護技能労働者 3 名（X,Y,Z）を対象に約 4 年間の縦断的調査を実施した。3 名全員が 1 回目に不合格だった後、合格者の指導によるベトナム語媒介のオンライン国試対策（約 10 万円）に投資し、3 回目に向けては X が SNS 自主学習グループを、同居する Y と Z は相互励起による自習を選択し合格した。X は N2 取得に投資した一方、Y と Z は JLPT に投資しなかった。

この事例は、オンラインや SNS を含めて、ベトナム人同士の学習機会を当事者が自ら構築している点の重要性を浮き彫りにしている。ここからは EPA の集合研修などベトナム人同士が学ぶ機会こそが有効な支援である可能性が示唆される。

【発表 6】 13:10 - 13:50

■ 発表者

藤谷克己・荒川洋平

FUJITANI Katsumi / ARAKAWA Yohey

■ 所属

文京学院大学（藤谷） / 東京外国語大学（荒川）

■ 発表タイトル

さいたま市外国人介護人材日本語ブラッシュアップ研修の中間報告

■ キーワード

インサービス研修、申し送りのタスク、患者利用者安全教育

■ 発表要旨

本セッションは、2026 年 6 月にさいたま市で行われた、市内介護施設で働く外国人材に対する日本語ブラッシュアップ研修の先行実践報告である。本研修は、市が応募を

募った市民活動助成金事業にさいたま市老人福祉施設協議会が助成申請を行い、行政の審査および有識者へのプレゼンを経て予算を獲得したものである。

研修は対面とオンラインのハイフレックス形式で行われ、月一回（1.5 時間×2）の授業を 5 回実施するものとし、6 月に第 1 回が行われた。研修対象者は原則、滞日 1 年以上、

日本語能力試験 N3 程度を条件とし、国際交流基金日本語国際センター（さいたま市浦和区）の教室を借りて 6 月の第 1 回研修では対面 6 名、オンライン約 20 名の外国人材に

授業を行った。

本研修は職能任意団体であるさいたま市老施協が主催していること、外国人介護技能者の業務上の課題の一つである「申し送り」のタスク完遂に特化していること、患者利用者安全教育をシラバスに加えていることの 3 点がユニークな特徴である。研修の先行実践報告を行うことによって、関係各方面の知見とコメントを仰ぎ、充実した形成的評価に繋げたい。

【発表 7】 14:00 - 14:40 ⇒こちらの発表は発表者のご都合によりキャンセルになりました。

【発表 8】 14:00 - 14:40

■ 発表者

グエン・ティ・ゴック・アイン
NGUYEN Thi Ngoc Anh

■ 所属

日越大学 ベトナム国家大学ハノイ校

■ 発表タイトル

介護現場における日本語運用上の困難点および日本語学習継続の状況
ーベトナム人介護技能実習生を事例としてー

■ キーワード

ベトナム人介護技能実習生、日本語運用上の課題、日本語学習継続

■ 発表要旨

本研究では、2025 年 1 月に、全国 17 都府県に滞在しているベトナム人介護技能実習生 83 名を対象に、アンケート調査を実施した。広域から得られた有効回答は、日本全国におけるベトナム人介護技能実習生の状況を一定の普遍性をもって捉えたものと考えられる。

量的分析を通じて、業務遂行上の日本語運用における困難点および日本語学習継続の状況を把握した。その結果、日常的な内容と専門的な内容では聞き取り能力に差がみられ、また、定型的な業務会話と対人的コミュニケーションとでも難易度に差があることが明らかになった。さらに、介護技能実習生は日本語能力の不足を背景として、実習開始後も日本語学習を継続する意欲が高く、学習時間も一定程度確保されているものの、学習方法や学習環境の整備にはばらつきがみられた。そのため、日本語学習を継続しているにもかかわらず、日本語能力の向上は限定的であることが示唆された。本研究の成果は、介護技能実習生の受入れ環境の整備および支援の在り方を再検討する上での一助となるものと考えられる。

【発表 9】 14:00 - 14:40

■ 発表者

神村初美・小平めぐみ・ドワンチャイ・ロタナワニッチ

KAMIMURA Hatsumi / KODAIRA Megumi / DUANGJAI Lorthanavanich

■ 所属

創価大学 / 国際医療福祉大学院 / タマサート大学

■ 発表タイトル

タイ人介護士へのインタビュー調査からみる介護コミュニケーションの特徴
—外国人介護人材のための日本語教育への示唆—

■ キーワード

外国人介護人材、介護コミュニケーション、日本語教育

■ 発表要旨

本発表では、タイ人介護士および家族介護者へのインタビュー調査をもとに、タイにおける介護実践の特徴を整理し、日本における外国介護人材に対する日本語教育への示唆を考察する。調査からは、タイでは近年、介護人材養成制度や資格制度が整備されつつあり、また、解剖学や認知症ケア、自立支援などの専門知識を学ぶ機会が拡大していることが明らかとなった。一方で、タイ人介護士が最も重視していたのは、利用者一人ひとりを理解し、励ましや説明、傾聴を通して安心感を与え、自立を促す実践的コミュニケーションであった。介護技術だけでなく、倫理観や尊厳への配慮、利用者との信頼関係の構築が質の高い介護を支える重要な要素として語られた。これらの結果から、日本での外国人介護人材に求められる日本語能力を、単なる語彙や敬語の習得ではなく、「利用者を励ます」「介護の意図を説明する」「相手の気持ちを引き出す」といった実践的コミュニケーション能力として捉え直す必要性が示唆された。

【発表 10】 14:00 - 14:40

■ 発表者

東平福美・出野由紀子

HIGASHIHIRA Fukumi / IDENO Yukiko

■ 所属

早稲田大学 / 鳥取大学 / ヤマザキ動物看護大学

■ 発表タイトル

フランスの移民向け福祉フランス語教育から考える看護・介護日本語教育
——外国人介護人材への声かけ表現指導に着目して——

■ キーワード

看護・介護日本語教育 / 声かけ表現 / 日仏比較

■ 発表要旨

本発表は、外国人介護人材を対象とした看護・介護日本語教育において、利用者への声かけ表現をどのように指導するかを、フランスの移民向け福祉フランス語教育との比較視点から検討するものである。介護・福祉現場では、専門用語や業務連絡の理解だけでなく、利用者に安心感を与える声かけ、相手の意思を確認する表現、不安や拒否感に配慮するやわらかな表現が求められる。この点は、日本で就労する外国人介護人材への日本語教育だけでなく、フランスで福祉分野に就職する移民へのフランス語教育にも共通する課題である。

そこで本発表では、介護場面で用いられる日本語の声かけ表現を取り上げ、直接的な指示表現と、利用者の尊厳や心理的安心に配慮した表現を比較する。また、フランス語における依頼・確認・配慮表現との対照を通して、介護・福祉分野で必要とされる言語能力が、単なる語彙や文法知識にとどまらず、相手との関係性を調整しながら現場に参加するための実践的な運用能力であることを示す。以上を通して、外国人介護人材の現場参加を支える日本語表現指導の方向性について考察する。

【発表 11】 14:00 - 14:40

■ 発表者

田辺淳子

TANABE Junko

■ 所属

愛知学院大学・日本語教育センター

■ 発表タイトル

オンライン教材の開発—介護の場面別声かけデータバンク—

■ キーワード

介護、声かけ、教材開発

■ 発表要旨

介護に従事する、またはその予定の非日本語母語話者：外国人介護人材は、2008 年の

EPA 介護福祉士候補者から始まり、来年には就労育成制度も施行される予定で、多様化がますます進むと予想されている。介護の日本語教育に関する教材は、2017 年の在留資格「介護」や技能実習に合わせ、出版やオンライン上での公開が進んだ。しかし、介護・医療に関する知識、日本語能力、介護施設での就業経験・年数に関わらず使用できる声かけ教材はほとんどなく、声かけを中心に扱っている教材においても、扱っている介護場面には限りがある。そのため、現在オンライン上で公開するための「介護の場面別声かけデータバンク」を開発している。対象は、外国人介護人材のみならず、その指導者、介護経験のない日本人介護職、介護の日本語を教える日本語教師なども含む。本データバンクは 2026 年度中に公開予定であるが、これまでどのように研究・開発を進め、どのような機能を持つものになるか報告する。

【発表 12】14:00 - 14:40

■ 発表者

横田彩子

YOKOTA Ayako

■ 所属

大阪大学人文学研究科言語文化学専攻博士後期課程

■ 発表タイトル

介護施設における外国人職員支援の位置づけ

— 法人 A のマネージャーへのインタビューから —

■ キーワード

外国人介護職員、人材育成、活動システム

■ 発表要旨

介護現場では外国人職員の受入れが進む一方、日本語学習支援や定着支援に加え、支援者側の実践に着目する必要性も指摘されている。しかし、施設内で人材育成全体を担う立場が外国人職員支援をどのように位置づけているかを扱った研究は少ない。本研究では、法人 A で新設された人材育成担当者への半構造化インタビューを実施し、新

たな取組に関する語りを対象に、活動システム（エンゲストローム, 1990）を援用して分析した。その結果、新設された役職は人材確保・育成・定着を法人全体で担う役割として位置づけられ、就任後は育成制度の運用、マニュアル整備、やさしい日本語の導入、外部研修、施設横断的な連携などに取り組んでいた。外国人職員支援は、日本人職員と切り離された支援ではなく、人材育成全体の中に位置づけられており、その認識の変化とともに、インタビュー自身の役割認識や実践も変容していた。本事例は、外国人職員支援を個別の支援としてではなく、組織的人材育成の一環として捉える視点の可能性を示唆するとともに、その実践を担う役割の重要性を示していると言える。

■ 休憩 14:40 – 15:00

■ 第二部 ミニラウンドテーブル

「あなたの葛藤や工夫が、次の現場をつくるヒントになる。」

対面開催 15:00 – 16:00

看護と介護の日本語教育実践者によるミニラウンドテーブル形式の報告セッションです。実践者による現場での葛藤や工夫を共有し、対話の場を設けます。多様な実践にふれて、これからの現場づくりのヒントを見つけてみませんか。
